小中連携スクールプログラムに基づく実践事例

三豊市立豊中中学校区
（豊中中・桑山小・笠田小・本山小・上高野小・比地大小）

人権感覚の高い児童生徒を育成する

ねがい

〈 目 的 〉

小学校と中学校が連携して、「言葉」と「行為」を高めることにしました。このことで、自分も相手（周りの人）も幸せになる言い方や行為のできる児童生徒、つまり人権感覚の高い児童生徒を育成することにしました。

つながり

〈 内 容 〉

豊中町では以前から、「豊中はひとつ」の合言葉のもと、保育所・幼稚園・小学校・中学校が生徒指導連携をしてきました。今回、その取り組みを深化・充実させました。

● 「言葉」を高める。

「トゲトゲことば」と「ふわふわことば」を、次のようにとらえています。

・「トゲトゲことば」――― 相手や周りの人を傷つける言い方。

・「ふわふわことば」――― 自分も相手（周りの人）も幸せになる言い方。

自分の意見だけを乱暴に主張する「トゲトゲことば」ではなく、相手を傷つけない・相手が納得する言い方で、自分の思いをはっきりと伝えることができる「ふわふわことば」を使える児童生徒の育成をめざしました。そのために、小学校でも中学校でも、「やさしさ」や「はげまし」の視点から言葉を集め、教室に掲示しました。

● 「行為」を高める。

「花咲山活動」を、次のようにとらえています。

・「花咲山活動」―――自分も相手（周りの人）も幸せになる行為。

相手が喜んでくれ、かつ自分も嬉しくなる行為ができる児童生徒を育成するために、「花咲山活動」の質的な向上をめざしました。小学校では、思いやりややさしさで実践した行為や、家族や地域のために活動している姿を紹介しました。

中学校では、この取り組みを深めるものとして、「ダイヤモンド賞」を実施しました。「集団宿泊学習」や「体育祭」などのテーマを決め、互いのよいところを認め他の人に知らせる活動です。

【ダイヤモンド賞の掲示】

高まり

〈 成 果 〉

小学校と中学校が連携して共通した取り組みを実践しているため、成果が大きかったように感じられます。また、取り組みに連続性があるために、小学校を卒業して中学校に入学しても、違和感なく中学生活をスタートすることができています。そのため、本年度１年生で欠席の多い生徒はいません。この取り組みが、「中１ギャップ」の解消に効果的であったとも考えられます。